

個人投資家説明会

Fly to the next stage!

説明資料

ヤマシンフィルタ株式会社
2025年9月13日



企業情報

商号	ヤマシンフィルタ株式会社 (YAMASHIN-FILTER CORP.)
所在地	〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル16F
設立	1956年4月5日 (昭和31年4月5日)
事業内容	建設機械用・産業用・プロセス用のフィルタ及び関連部品の製造・販売、 ナノファイバーの開発・製造・販売
資本金	6,571百万円
代表者名	山崎 敦彦 (Yamazaki Atsuhiko)
決算月	3月末
従業員数	単体：174名 連結：735名 (2025年3月末現在)
認定取得	ISO9001：2015 (JIS Q 9001：2015) 認証取得 ISO14001：2015 (JIS Q 14001：2015) 認証取得 CDP気候変動2024「Aリスト企業」認定

本社



ヤマシンフィルタ株式会社
横浜



開発拠点



ヤマシンフィルタ株式会社
横須賀イノベーションセンタ

製造拠点



ヤマシンフィルタ株式会社
佐賀事業所



YAMASHIN CEBU FILTER
MANUFACTURING CORP.
フィリピン セブ



YAMASHIN VIETNAM CO.,LTD
ベトナム ハノイ

製造・販売拠点



株式会社アクシー
エアフィルタ専門メーカー
大阪府大阪市



YAMASHIN AMERICA INC.
米国 シカゴ



YAMASHIN EUROPE BRUSSELS BV
ベルギー ブリュッセル



YAMASHIN THAI Ltd.
タイ バンコク



YAMASHIN FILTER
(SIP) INC.
中国 上海

| ヤマシンフィルタの強み

建設機械の稼働に不可欠なフィルタ、多様なラインナップを建機メーカーに提供



Tier1メーカーとして、建機業界や顧客ビジネスに対するナレッジ・1次情報を豊富に保有、それらをもとに製品開発・最適供給することで顧客価値を最大化、トップシェアを誇る

POINT.1

建設機械分野でフィルタ製品を供給する

Tier1メーカー

POINT.2

建設機械用油圧フィルタ

世界シェアNo.1



国内における主要建機向け油圧フィルタ売上シェア (2012年度) 出典：矢野経済研究所



全部門で業界・顧客の課題やニーズを把握することで、新たな顧客価値を最大化



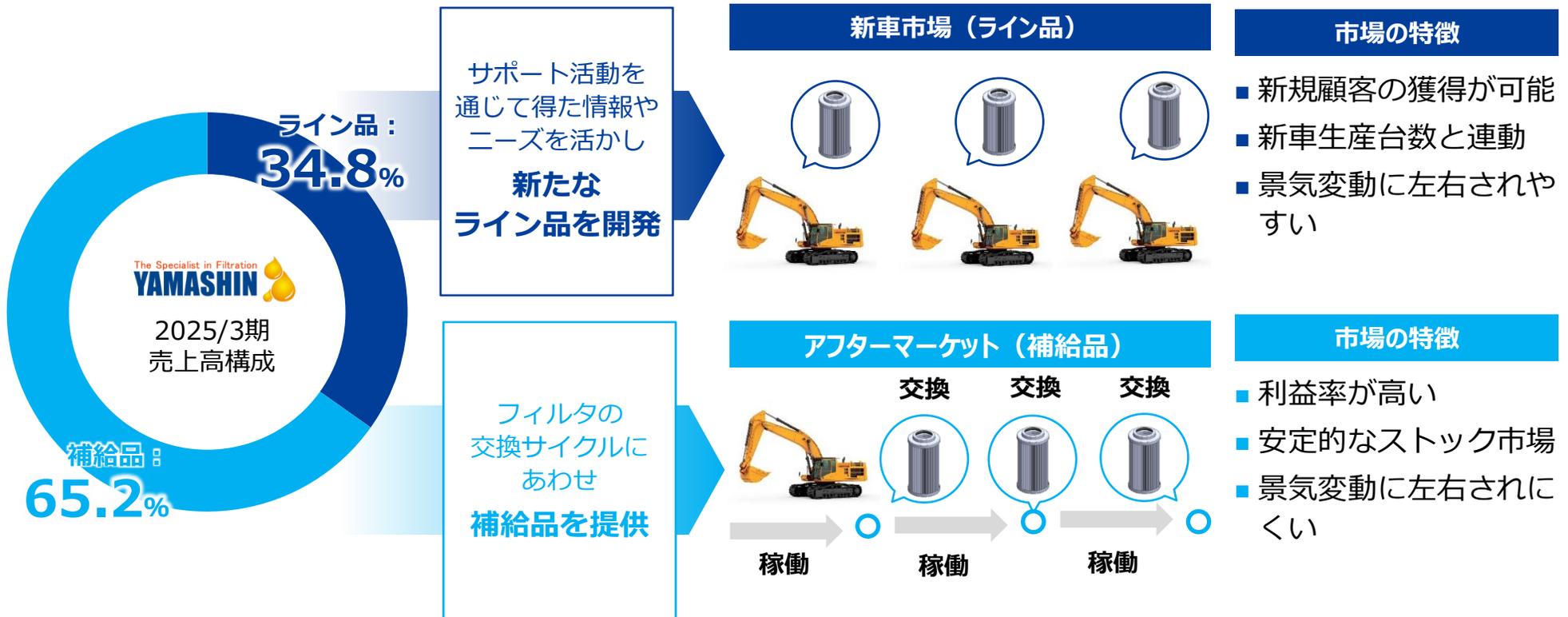
顧客ニーズを満たす
3つの強み



POINT.3

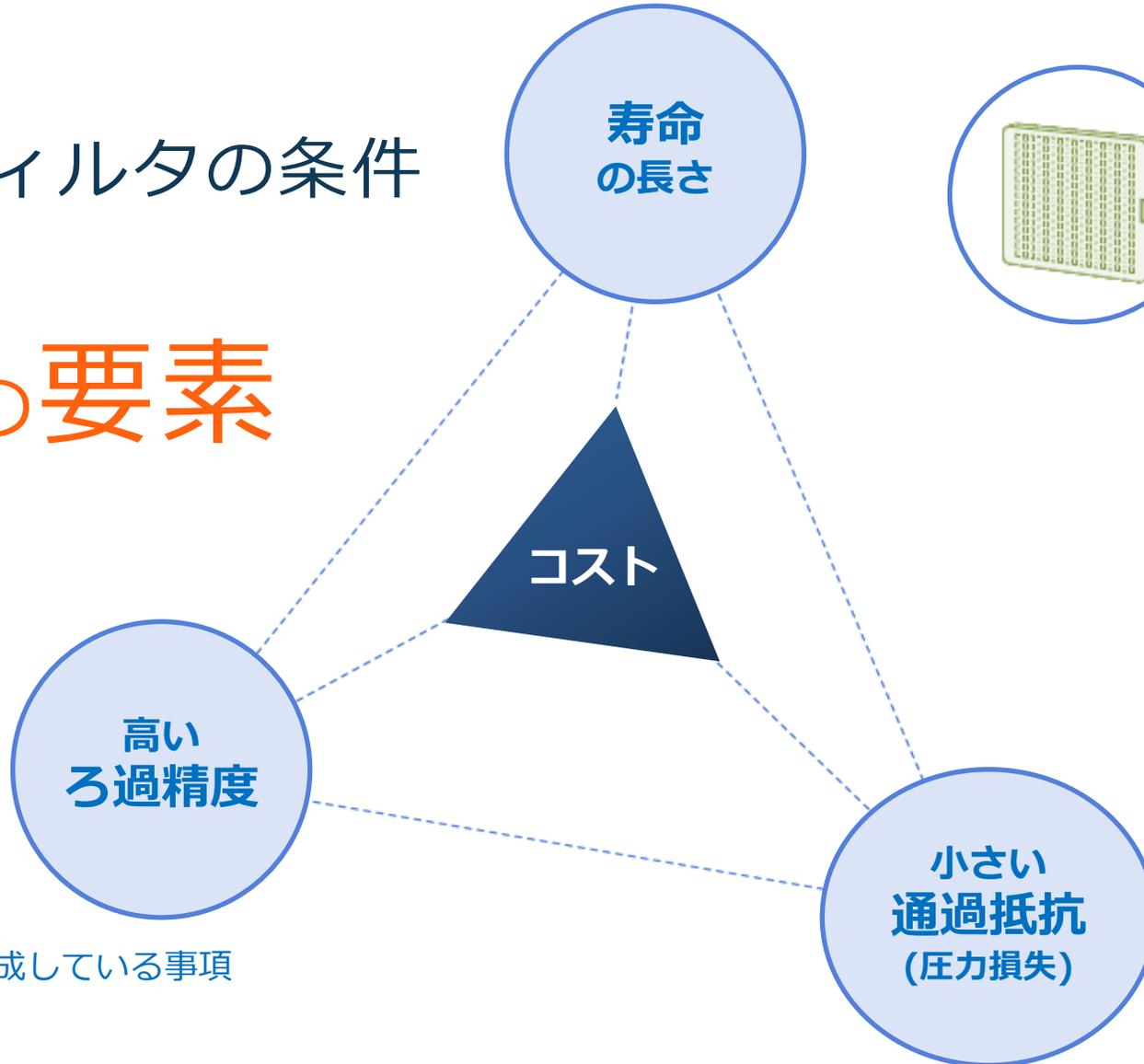
安定した補給品市場

新車ライン品と交換用のアフターマーケット補給品を組み合わせることで、安定した収益構造を実現
加えて市場の情報やニーズを把握し、新たな開発につなげるサイクルを確立



良いフィルタの条件
である

3つの要素



○ すでに達成している事項

POINT.4 自社でろ材開発と供給

これまでも当社は先んじて建機業界のデファクトを牽引してきた実績がある
ガラス繊維に置き換わる次世代のろ材として、ナノファイバーを競合他社に先んじて導入を進める

これまで

社会の要請に合わせてフィルタのろ材に
こだわり、自社で独自の素材を開発し業界を
リード

創業期

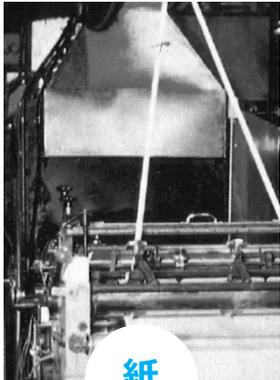
黎明期

発展期



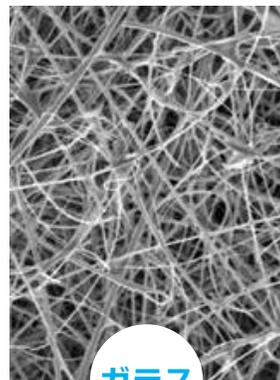
布

帆布製品の
縫製加工



紙

フィルタメーカー
として自社で
ろ紙を開発



ガラス

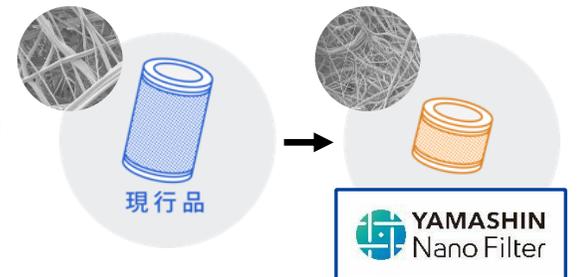
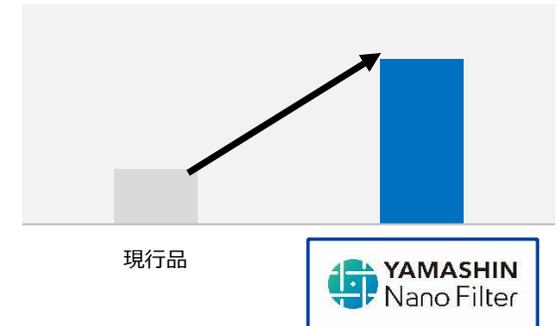
ガラス繊維を用い
市場を席卷し
高いシェアを獲得

新製品

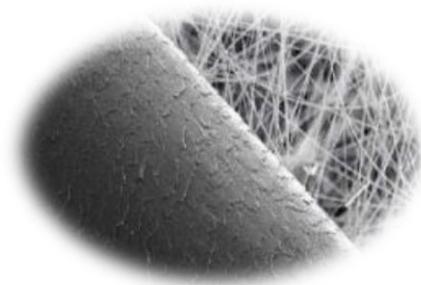
YAMASHIN Nano Filter™から生成される
ナノファイバー素材は、立体的な構造と加工
の自由度の高さが特徴

素材性能を活かし
現行品に比べ
**約3倍の
ダスト捕獲量**

従来のガラス繊維の
製品と比較して
**約2倍の精度を
実現**



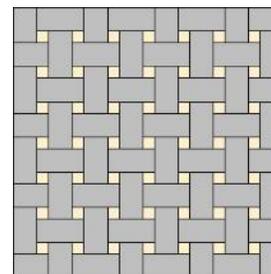
■ YAMASHIN Nano Filter®とは？



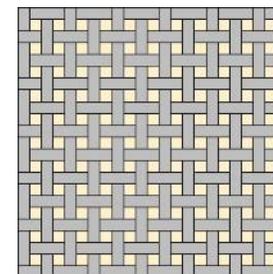
ナノファイバー：
極細繊維 φ500nm
(髪の毛の約1/140)



繊維径が細いと様々な効果が期待される



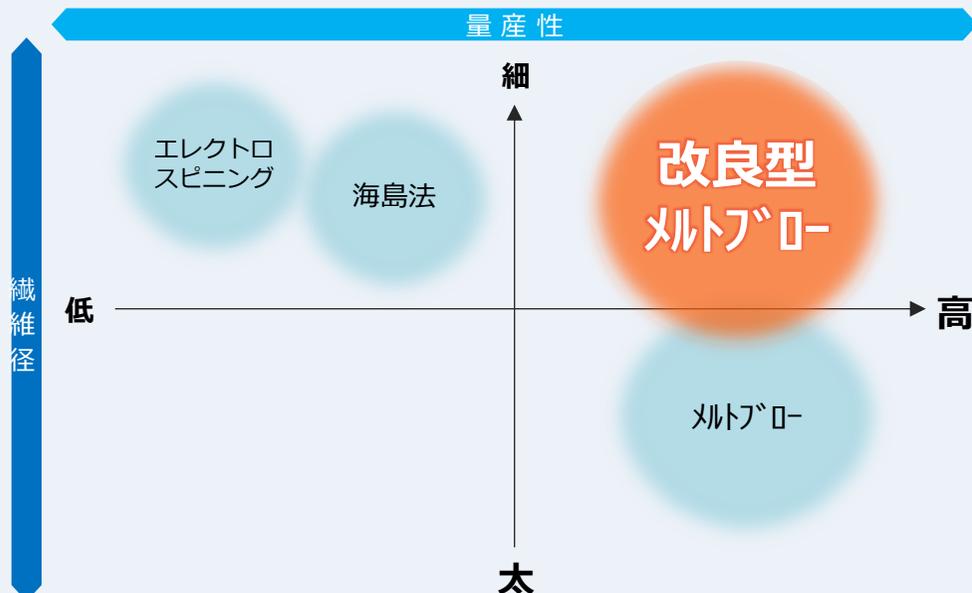
マイクロファイバー



ナノファイバー

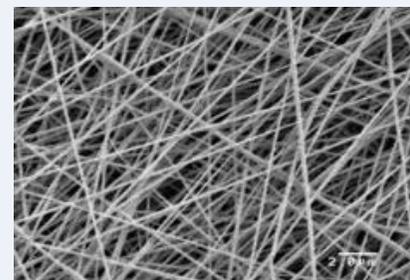
① コストパフォーマンスに優れたナノファイバー

「改良型メルトブロー法」という独自の生産方法で
圧倒的な量産性を実現

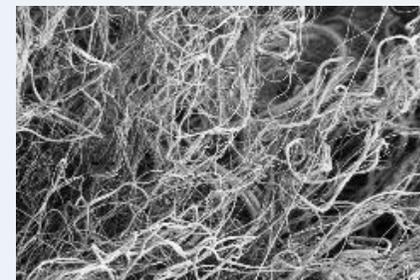


② 当社独自技術によりシート化可能

繊維径分布と特殊な形状の融合により、
ファイバーを立体構造化し、高高さを作り出す



他社ナノファイバー



YAMASHIN Nano Filter®

ナノレベルの繊維径で、厚みのあるシート化は
ヤマシンフィルタ独自の技術。

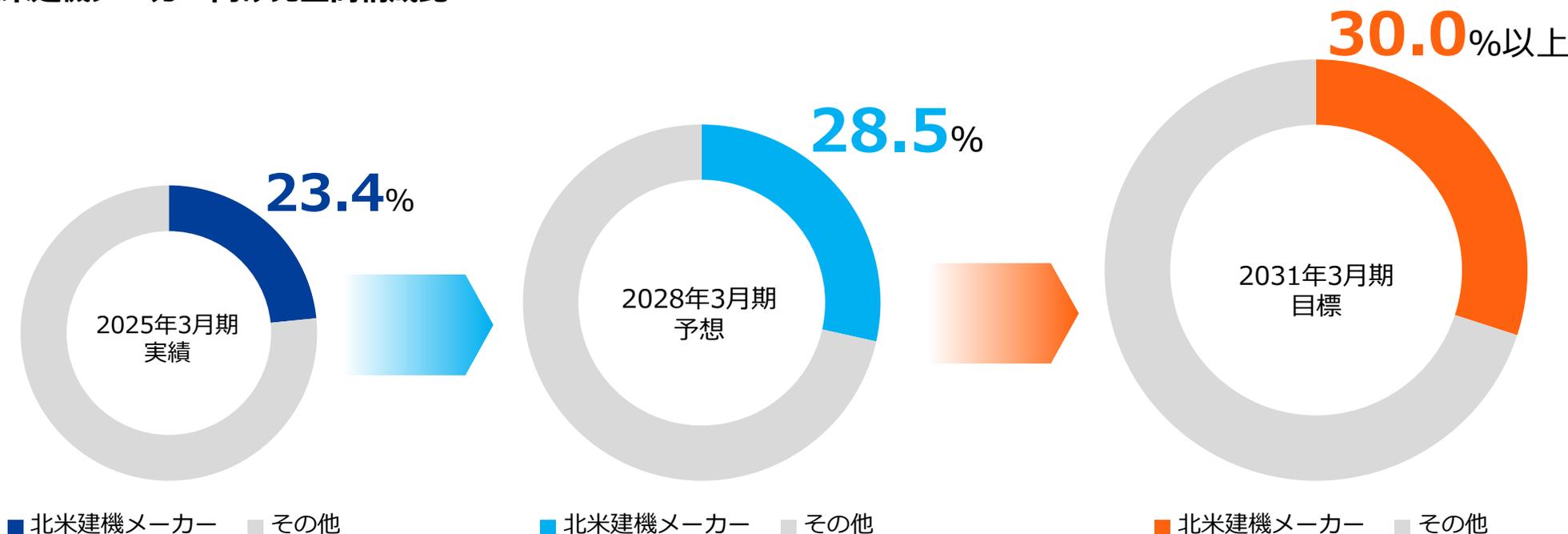


新たな価値創造の取り組み

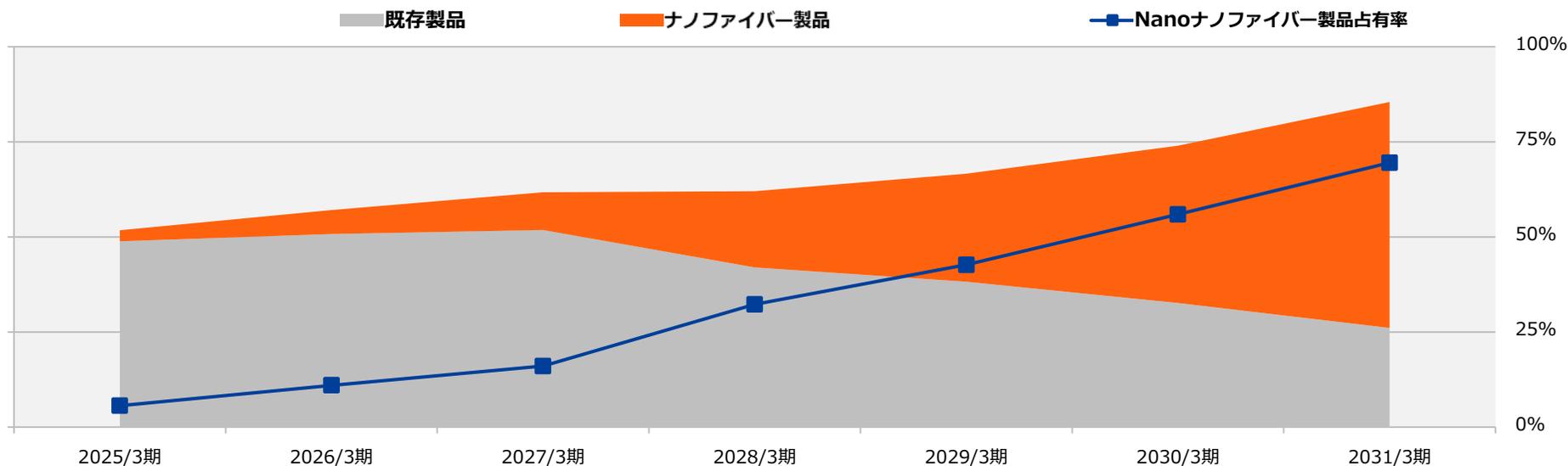
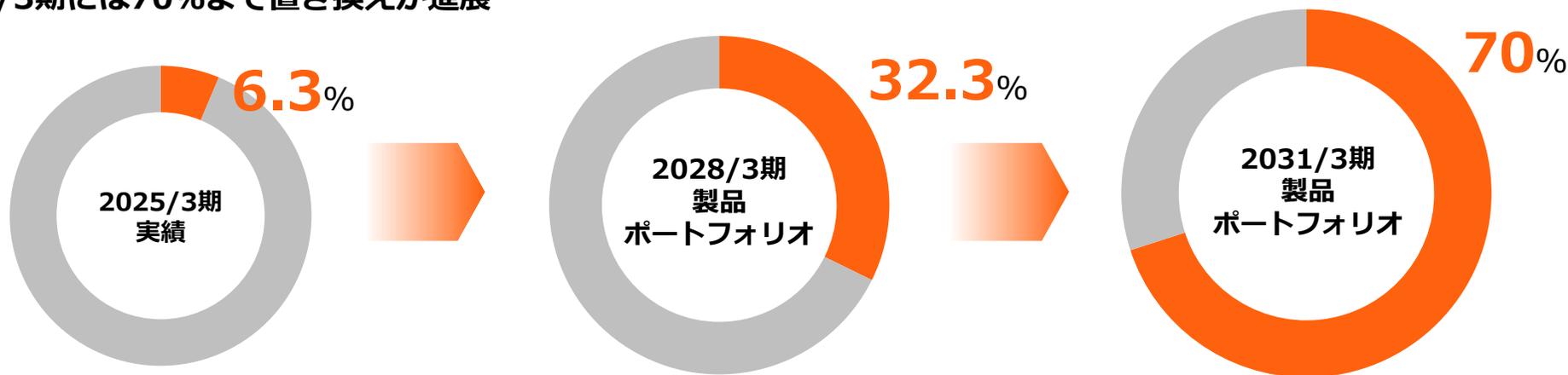
北米建機メーカー向け売上高構成比は、大幅な拡大を見込む



北米建機メーカー向け売上高構成比



既存製品からナノファイバー製品への置換えが進展、中計期間最終年度には目標の売上構成比30%を上回る見通し、2031/3期には70%まで置き換えが進展



当社はまだ一部分しかリーチ出来ていないが、アフターマーケット市場には大きな開拓余地がある

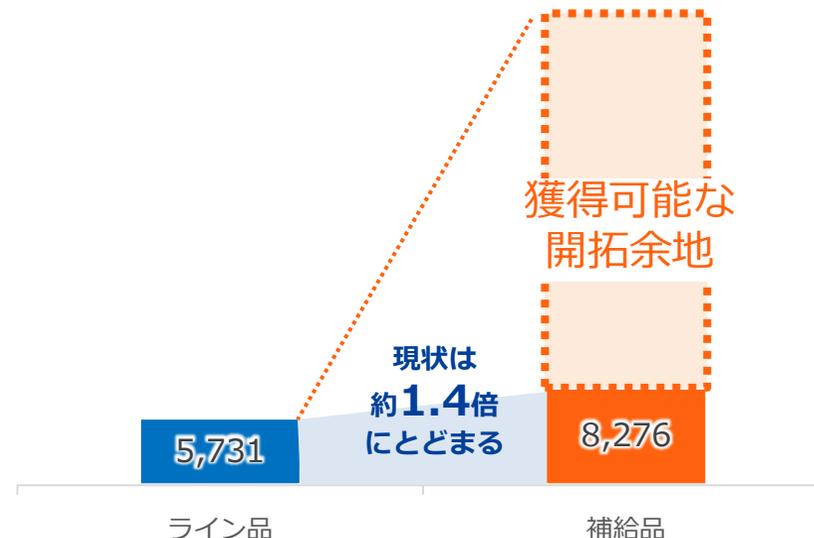
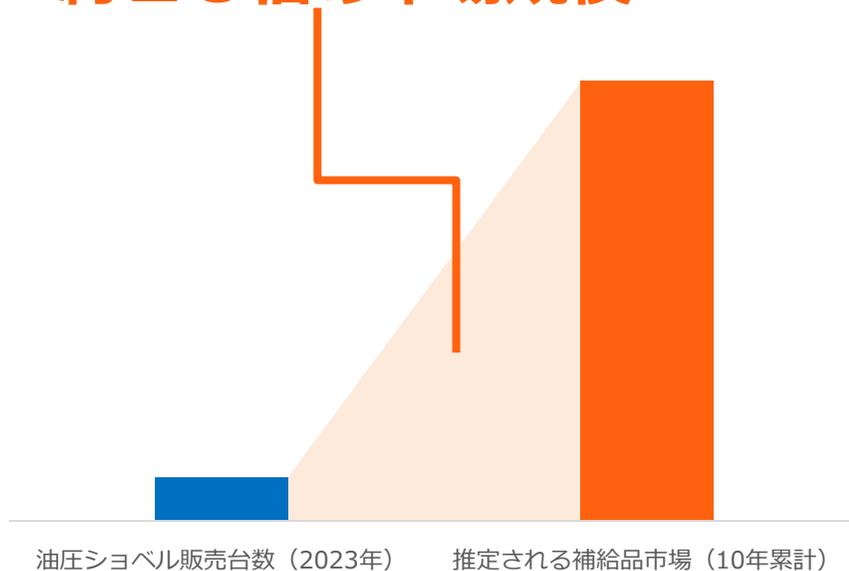
市場データ
単年度、5年間販売台数

当社のライン品・補給品売上高
24/3期

補給品はライン品の
約**10倍**の市場規模

≠

The Specialist in Filtration
YAMASHIN
当社の補給売上はラインの
約**1.4倍**程度



規制動向や環境ニーズの高い欧州をはじめとする海外市場では、機能性ろ材の需要は強い
地産地消が基本となるエアフィルタにおいて、スピード対応するためにろ材販売が最適と判断

フィルタ素材に求める機能性の高まり

環境規制のトレンド

- PFAS※¹規制強化
- ZEB※²認証

半導体製造の技術トレンド

- ボロン※³汚染への対応

エアフィルタ市場

HVAC※⁴用フィルタ全世界
67.2億米ドル (2024年)
年平均成長率**6.9%** ※⁵

NanoWHELPシリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

製品用途	製品特徴
中高性能エアフィルタ用	省エネ性能 低CO2排出 PFAS・PFOSフリー※ ¹

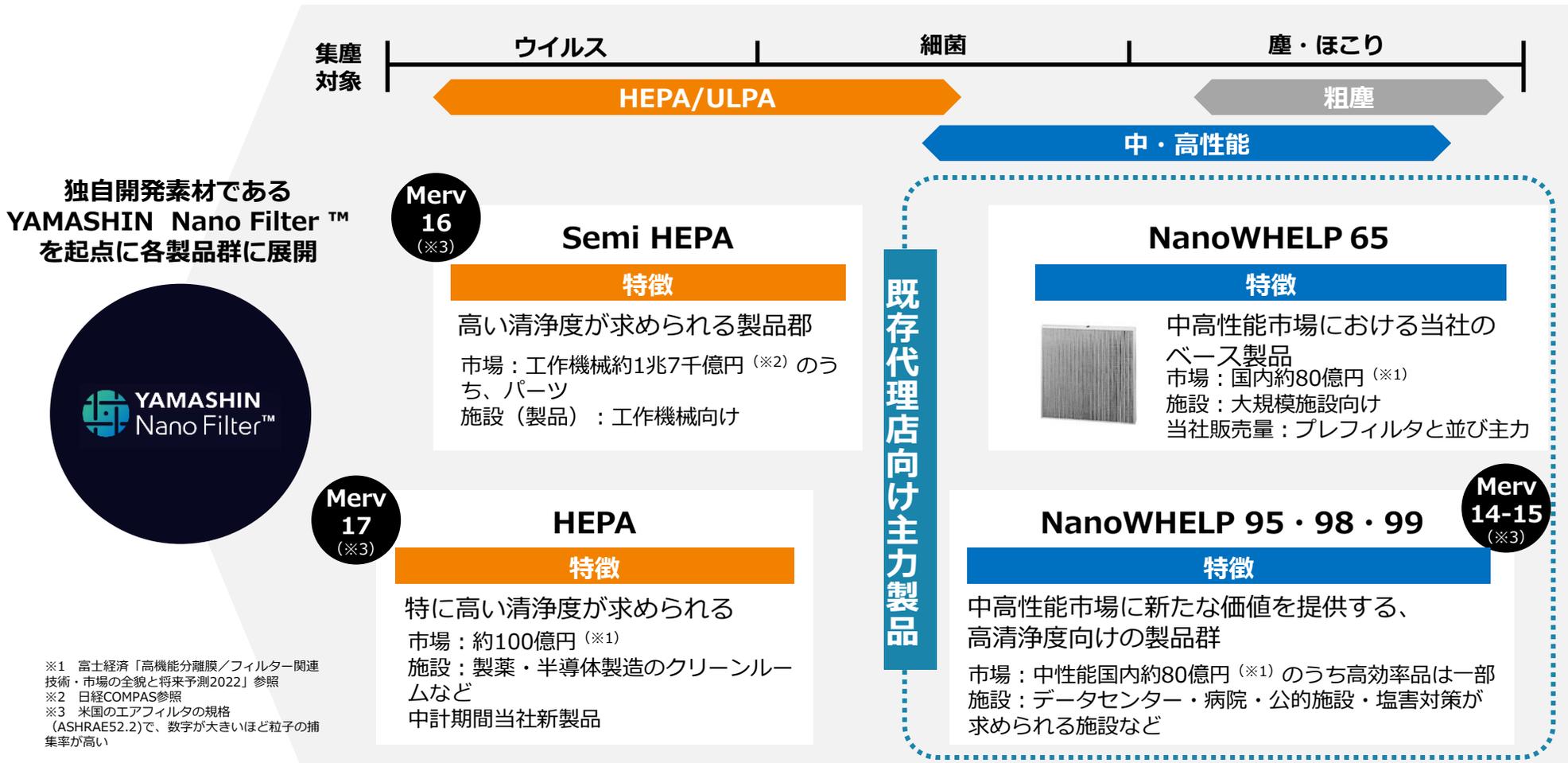
Nano Air (HEPA) シリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

製品用途	製品特徴
特に高い清浄度が求められる環境向け 製薬・半導体製造のクリーンルームなど	PFAS・PFOSフリー※ ¹ ボロンフリー※ ³ の不織布型

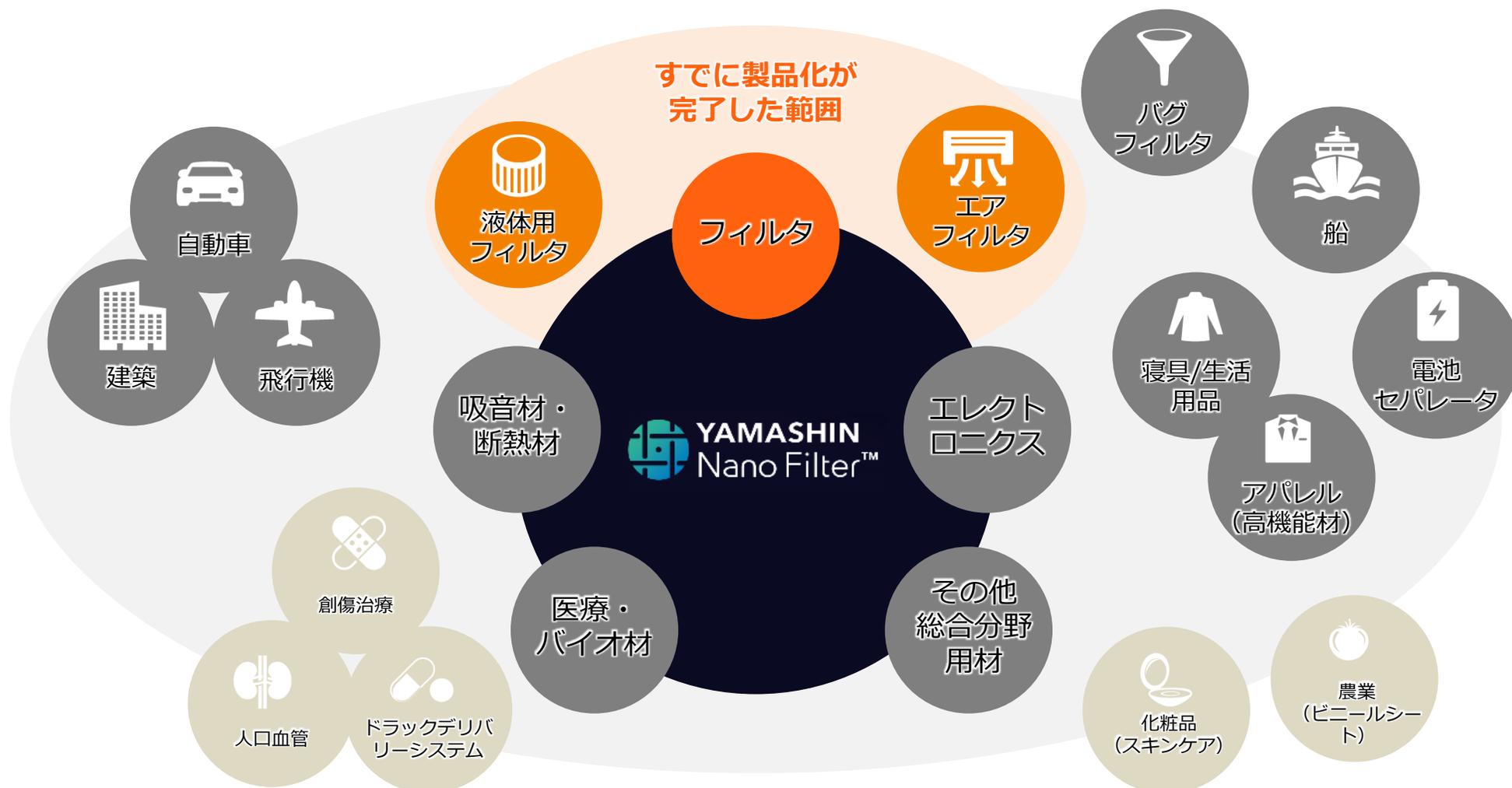
- ※¹ 有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、代表例として、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）がある。難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質がある
- ※² Net Zero Energy Buildingの略称。建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロとすることを指した建物
- ※³ ホウ素のこと。半導体特性に影響を与えてしまうため、半導体工場では避けられる。
- ※⁴ 冷暖房等の空調システム。
- ※⁵ 出典：Research and Markets

独自開発のナノファイバーろ材を用いたNanoWHELPのラインナップが存在
特徴であるロングライフ化と低い空気抵抗による省エネ・CO2低排出を活かす

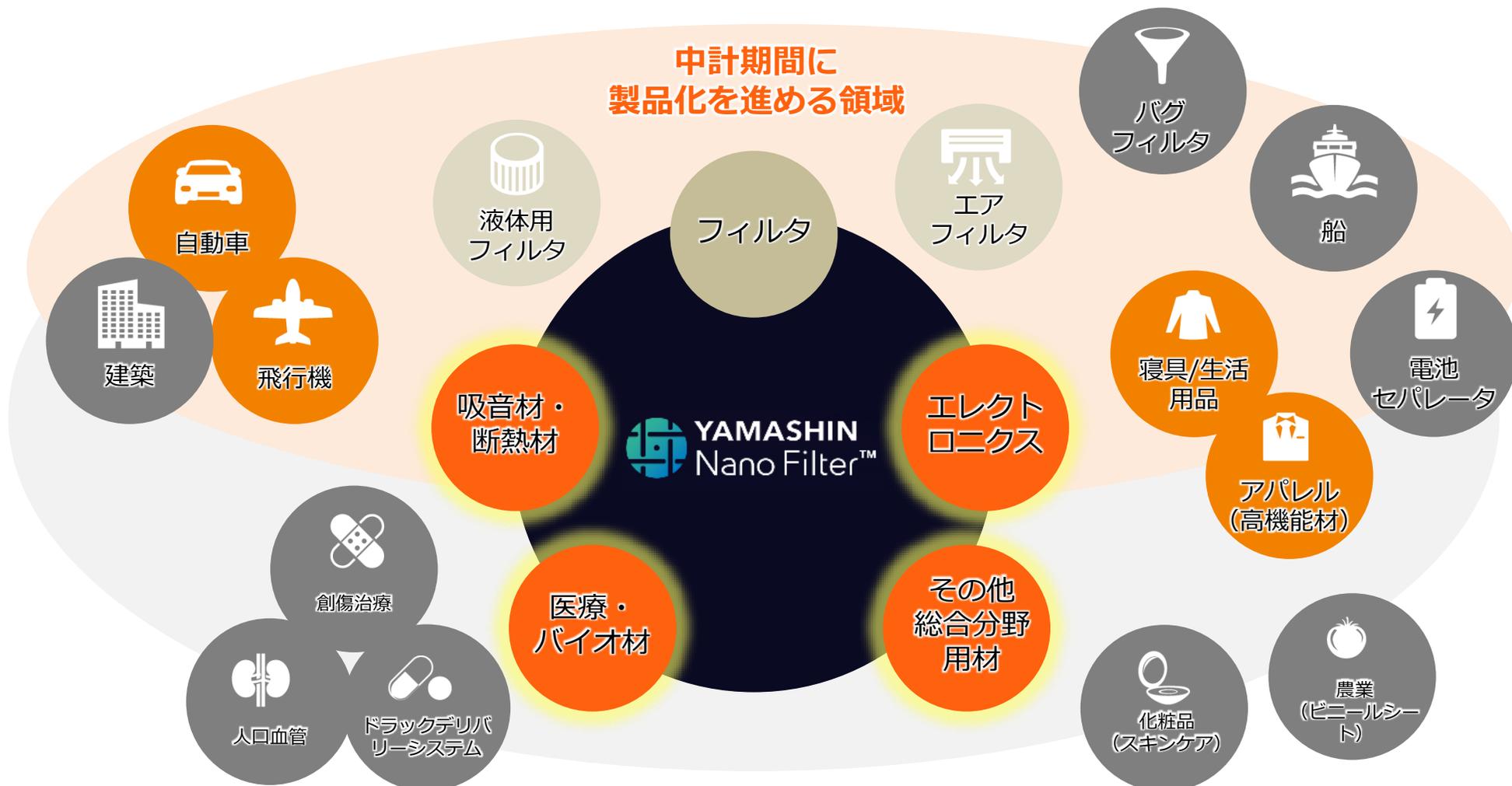


※1 富士経済「高機能分離膜/フィルター関連技術・市場の全貌と将来予測2022」参照
※2 日経COMPAS参照
※3 米国のエアフィルタの規格 (ASHRAE52.2)で、数字が大きいほど粒子の捕集率が高い

YAMASHIN Nano Filter™は素材として様々な可能性をもっており、
開発以来フィルタ領域におけるろ材としてはすでに新製品開発に成功し実用化



すでに製品化しているフィルタ領域に加えて「断熱・吸音」「エレクトロニクス」分野を軸に自動車・飛行機、アパレル分野への進出を目指す研究開発を進める

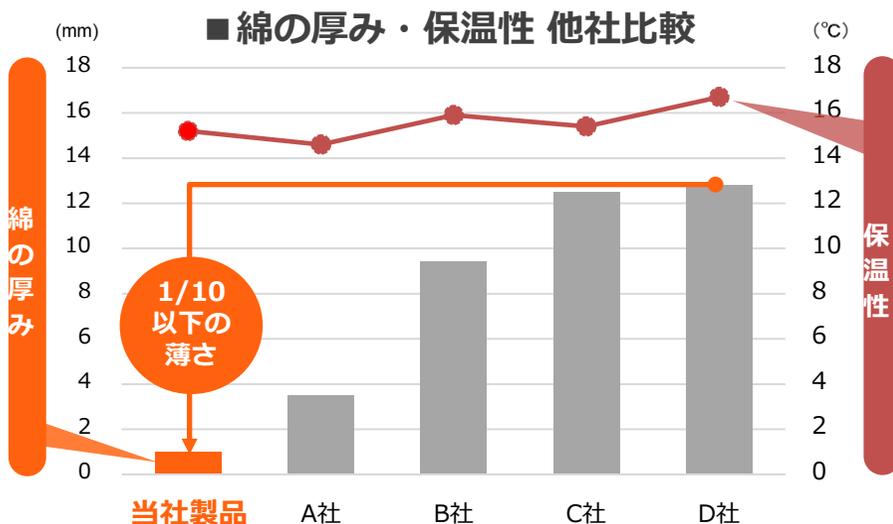


他社製品よりスリムで保温性のある素材を開発

環境面に配慮したバイオ-PETの中綿素材や最終製品のニーズに応える機能性を付与した製品開発も進展中

アパレル

繊維径分布と特殊な形状の融合による
ファイバーの立体構造化と
吸湿発熱効果を複合することにより
薄くて暖かいを実現



バイオマスPETの3つのメリット



原料イメージ

- 1 CO₂排出量
21%削減
- 2 資源の多様化
- 3 リサイクル可能

極めて高い断熱性と軽量性を兼ね備えており、住宅の省エネ化や航空宇宙産業における熱制御素材としての応用が期待される

ビル・住宅

薄型・軽量かつ柔軟な構造で、
壁材・屋根材に使用可能
環境配慮型の建材素材として応用可能



航空宇宙産業

ナノファイバーの優れた断熱性が
機器や乗員の安全をサポート
更に薄型・軽量化でスペースの確保を実現



外部環境に影響を及ぼす電磁波をブロックし、機器本来の性能を引き出す高機能素材を開発中
将来的には、通信機器、医療機器、車載電子機器など、幅広い産業分野への展開を目指す

ドローン

通信安定性や制御精度が向上し、
物流、災害対応、農業、防衛などの分野で
ドローン活用を支える



EV関連

電磁波による誤動作や効率低下を抑制し、
システム全体の信頼性と
エネルギー効率を向上させる



企業価値向上に向けた新たなビジョン・エクイティストーリーを
11月20日に発表予定

現在想定している公表内容

Yamashin Vision 2030 /
新事業の展望を含む新たなエクイティストーリー

2026年3月期 第2四半期決算説明会
(2025年11月20日) 動画配信にてご案内予定

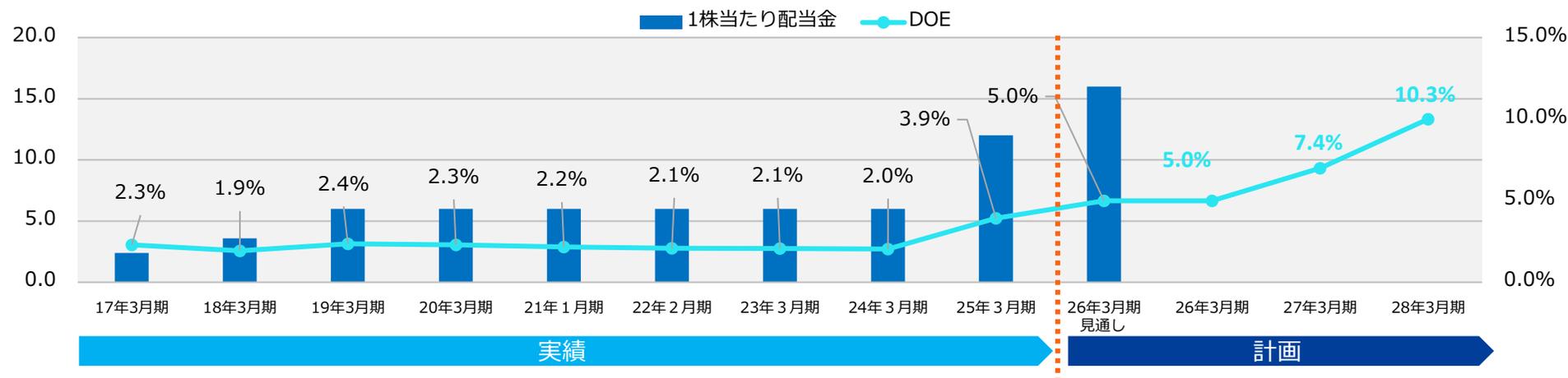
新中期経営計画定量目標

資本政策を抜本的に見直し高い株主還元を目指す 配当方針として2028年3月期DOE10%

※成長投資の必要性を踏まえ実施

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
1株当たり配当金	6円	12円	16円	(16円)	(24円)	(34円)
DOE (%)	2.0	3.9	5.0	5.0	7.4	10.3
配当性向 (%)	54.5	49.3	58.4	58.1	72.2	82.9
総還元性向 (%)	121.0	52.9	128.4	113.5	119.3	122.0

1株当たり配当金推移



2025年3月期までに収益改善、経営基盤の強化を完了、
2028年3月期にはMAVY's 2%以上、時価総額1千億円を目指す

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	18,024	20,104	20,420	22,030	23,790
営業利益	1,411	2630	2,720	3,220	3,875
営業利益率 (%)	7.8	13.1	13.3	14.6	16.3
MAVY's (%)	△2.6	1.0	0.2	1.3	2.9
ROIC (%)	4.9	8.2	8.1	8.9	10.2
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3
EPS (円)	11	24.3	27.5	33.2	41.0

建機用フィルタビジネスの収益性は大幅に改善、エアフィルタ事業のROIC改善が取り組むべき課題

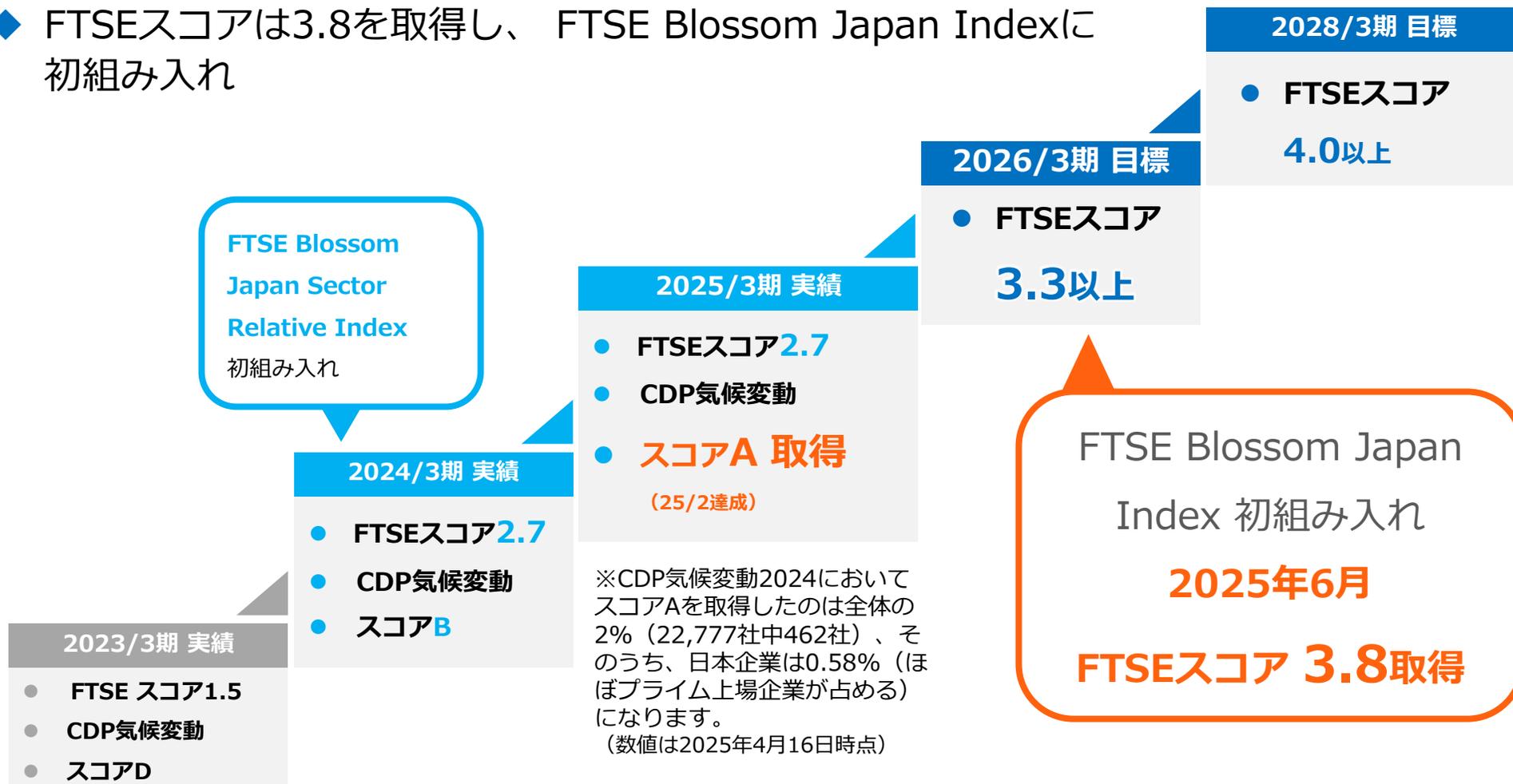
建機用フィルタ事業

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	15,382	17,489	17,520	19,030	20,690
営業利益	1,320	2,554	2,600	3,070	3,710
営業利益率 (%)	8.6	14.6	14.8	16.1	17.9
ROE (%)	3.9	9.4	9.8	11.7	14.4
MAVY's (%)	△1.7	2.0	1.5	2.6	4.3
ROIC (%)	5.8	10.0	9.4	10.2	11.6
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3

エアフィルタ事業

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 計画	27年3月期 計画	28年3月期 計画
売上高	2,642	2,615	2,900	3,000	3,100
営業利益	91	75	120	150	165
営業利益率 (%)	3.5	2.9	4.1	5.0	5.3
ROE (%)	2.4	△0.3	2.3	2.8	3.0
MAVY's (%)	△6.0	△8.3	△5.8	△5.1	△4.6
ROIC (%)	1.5	△0.2	2.1	2.5	2.7
WACC (%)	7.5	8.1	7.9	7.6	7.3

- ◆ 非財務情報KPIのCDPスコアはCDP気候変動2024において「Aリスト企業」に初認定され、2028年3月期の中計目標を前倒しで達成済み
- ◆ FTSEスコアは3.8を取得し、FTSE Blossom Japan Indexに初組み入れ





この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp